

1 麦類の栽培について

本年産は播種以降、平年に比べて気温が高く、降水量は少なく推移しました。11月18日に播種されたビール大麦の莖立期は、平年より1日遅い3月8日でした。気象庁季節予報によると、今後の気温は平年並みか高い見込みのため、出穂期は平年並～早まると予想されます。

明渠の点検・補修や赤かび病防除の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

① 排水対策

登熟期の湿害は根の活性を落とし、粒の充実不足を招きます。

- ・圃場の排水溝の溝さらいをしましょう。
- ・まだ設置していない圃場は、周囲に排水溝を掘りましょう。
- ・排水口は排水溝よりも低く掘り下げて、圃場外の排水路につなぎましょう。

② 赤かび病防除

赤かび病は出穂期以降に天候不順が続くと発生の可能性が高くなります。また、比較的暖かい年に多発する傾向があります。不稔粒発生・登熟期の連続降雨等は発生を助長する恐れがあります。

赤かび病が発生すると出荷できなくなるので、必ず薬剤散布を行いましょう。

- ・**二条大麦（ビール麦、食用大麦）**
防除適期：穂揃い期の7～10日後
ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、1回目の7～10日後に2回目の散布をしましょう。
- ・**小麦**
防除適期：1回目⇒開花始め（おおむね出穂期の7日後）、2回目⇒1回目の20日後
ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、3回目の散布を行いましょう。
- ・**はだか麦（ビューファイバー）**
防除適期：1回目⇒開花始め（おおむね出穂期の7日後）、2回目⇒1回目の10日後
ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、3回目の散布を行いましょう。

⚠ 不稔の発生を助長する主な気象条件

- ・出穂期8～10日前の低温（-1℃～-1.5℃に3～4時間遭遇）
- ・出穂期前後の降霜
- ・出穂期前後に25℃以上の高温に遭遇

2 水稻の栽培について

●未消毒種子を購入した場合は種子伝染性病害防除の為、種子消毒を必ず行いましょう。

【種子消毒薬剤の例】

2月28日時点の登録内容です。

農薬名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用回数
テクリードC フロアブル	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、 いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病(リゾープス菌)、 苗立枯病(トリコデルマ菌)	200倍	24時間 種子浸漬	1回
スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ	1,000倍	6～72時間 浸漬	1回

【浸種の目安期間】

種子	浸種温度	浸種日数(積算温度)
消毒種子	10～15℃	8～13日(積算温度120～130℃)最初の3日程度は水を交換しない。
未消毒種子		種子消毒を行った後、7～12日(積算温度100～120℃)

(裏面あり)

●播種量

	播種量(g/箱)	箱数(箱/10a)	育苗日数(日)	葉齢(枚)	草丈(cm)
稚苗	乾籾 130	20~23	20	2.2~2.5	12~13
	催芽籾 170				
半中苗	乾籾 100	24~30	25	3.1	13~15
	催芽籾 130				
中苗	乾籾 100	24~30	30	4.1	15~18
	催芽籾 130				

※箱数(最多)は、1株当たり植付本数が4本、栽植密度が坪当たり70株(㎡あたり21株)、安全率120%で計算

※コシヒカリ以外の品種(とちぎの星、あさひの夢)は大粒なので、播種量をとちぎの星で1~2割、あさひの夢で1割増やす。

※葉齢は、鞘葉と不完全葉を除く枚数

【「とちぎの星」の倒伏と低収の要因分析のための栽培アンケート調査を行いました】

○調査方法

令和4年産とちぎの星生産者の皆様にアンケート用紙を郵送しました。回答いただいた各栽培管理項目について、倒伏発生程度、収量との関係性を解析しました。

○結果

(1) 倒伏発生の要因解析について

植付本数が多いほど倒伏程度が高い傾向がありました(図1)。

1株あたりの植付本数が多いことで過繁茂となり、稈が徒長して細くなってしまう倒伏し易くなっていると考えられます。

(2) 低収の要因解析について

倒伏程度が大きいほど低収になる傾向がありました。特に、倒伏程度4を超えると大きく減収していることが分かりました(図2)。

○今後の方針

収量確保のためには、倒伏させない栽培管理が必要です。必ず移植作業前に田植機の苗取量レバーを調整し、かき取り本数が3~5本であることを確認しましょう。また、育苗期間が30日以上、常時湛水といった倒伏や低収に関与する要因も見られました。弁当肥の施用、間断かん水、中干しの実施等計画的な作業・適正な水管理を心がけましょう。

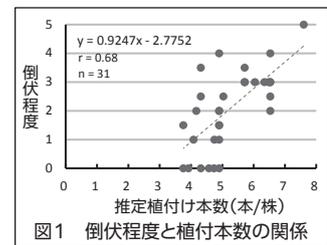


図1 倒伏程度と植付本数の関係

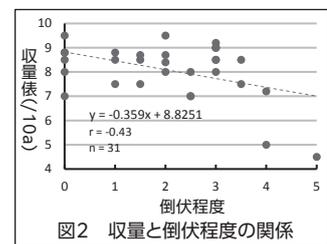


図2 収量と倒伏程度の関係

●天候が悪いと穂数が確保できず、品質も不安定になりやすくなります。安定生産のため基本技術を徹底しましょう。

安定栽培のためのポイント

- ・薄播き (1箱乾燥籾150g以下で、均一に播種)
- ・小苗植え (1株当たり平均3~5本で移植)
- ・20~22株/㎡ (約70株/坪) の栽植密度で移植

3 水田活用の直接支払い交付金について

交付対象となる水田の扱いが変わります!!

- ・5年間(R4~R8)に一度も水張りが行われていない農地は、交付金の交付対象となりません。
- ・水張りは、水稲作付けにより確認することを基本とします。ただし、以下のすべてに該当する場合は水張りを行ったとみなします。

①湛水管理を1か月以上行うこと。

②連作障害による収量低下が発生していないこと。

- ・また、災害復旧に関連する事業や基盤整備に関連する事業が実施されている場合は、5年間に一度も水張りが行われていない場合であっても交付対象水田から除外しません。

※詳細は、足利市農業再生協議会にご確認下さい。